



認定 NPO 法人 ミュージック・シェアリング

International Community Engagement Program 2013

インターナショナル・コミュニティ・エンゲージメント・プログラム

2013 ミャンマー 実施報告書

認定 NPO 法人 ミュージック・シェアリング

〒102-0092 東京都千代田区隼町2-12

藤和半蔵門コープ708

TEL: 03-3261-1855 FAX: 03-3261-1856

E-mail: info@musicsharing.jp

認定 NPO 法人 ミュージック・シェアリング

ミュージック・シェアリングは、1992年より、文化・芸術の振興と子どもの健全育成を目的として活動する NPO です。本物の音楽を通して子どもたちの豊かな心を育てるとともに、音楽家の社会貢献活動に対する理解を深める場を提供する音楽プログラムを実施しています。

ミュージック・シェアリングの活動は個人や法人・団体の皆様から寄せられるご寄付、協賛金、助成金で運営しています。

インターナショナル・コミュニティー・エンゲージメント・プログラム (ICEP)

「インターナショナル・コミュニティー・エンゲージメント・プログラム」(以下 ICEP) は、五嶋みどりが若手演奏家とカルテットを結成しアジア各国を訪れ、子どもたちの普段の生活の場にクラシック音楽の生演奏を届けながら国際交流を図る活動です。これまでに、ベトナム (2006年)、カンボジア (2007年)、インドネシア (2008年)、モンゴル (2009年)、ラオス (2010年)、バングラデシュ (2012年) で実施し、アジア訪問の翌年には日本で報告コンサートを開催しました。

2013年12月にはミャンマーを訪問し、2014年6月に東京と大阪で活動報告コンサートを行います。また、2014年12月にはフィリピンでの活動を予定しています。



ICEP 2つの目的

◆未知の文化体験をアジアの子どもたちに

ICEP で訪問する国の子どもたちは、身近な場所でクラシック音楽の生演奏を聴く機会がほとんどありません。子どもたちのクリエイティビティー・相互理解・向上心を育む一助となるよう、視野を広げ明日への夢を抱くきっかけ作りを提供します。

◆世界各国の若手演奏家とともに活動

五嶋みどりとカルテットを組むのは、世界からオーディションにより選ばれた若手演奏家3名。オーディションでは録音審査以外に小論文やメールインタビューの課題を設け、総合的に評価しています。若手演奏家が ICEP での経験を通じて音楽のもたらす力について見つめ直し、音楽家としてできる社会貢献活動とはどのようなことなのか、実体験を通じて認識していきます。

◆もうひとつの ICEP — 活動は日本でも

ICEP 訪問国での活動を日本国内に発信するため、アジアツアーの翌年、日本でカルテットを再結成します。演奏とともに訪問国での活動について演奏家自身が語る「ICEP 活動報告コンサート／五嶋みどり & Young Artists」の実施に加えて、日本の小学校やジュニアオーケストラで行う「訪問プログラム」にも参加。日本の子どもたちに ICEP 訪問国の様子やそこで暮らす子どもたちの現状を伝え、「日本人として今自分にできることはなにか」を考えるきっかけを作ります。

参加アーティスト



五嶋みどり Midori (ヴァイオリン)

10歳で渡米。11歳でニューヨーク・フィルとの共演以来、指揮者ではバーンスタイン、アバド、メータ、小澤、ラトル、ヤンソンス、エッシェンバッハ、器楽奏者ではスターン、ズッカーマン、ヨーヨー・マ、オーケストラではベルリン・フィル、ウィーン・フィル、パリ管、コンサートヘボウ管をはじめ、世界の著名な音楽家と共演を重ねる。また、アメリカの教育番組「セサミストリート」や教科書にも登場する、欧米で最もポピュラーなクラシック音楽家である。現代音楽の初演、新進作曲家の作品発表、委嘱プロジェクトの推進など、将来を見据えた音楽啓蒙活動も精力的に行っている。

コミュニティー・エンゲージメント活動（地域密着型の社会貢献活動）にも意欲的に取り組み、1992年、ニューヨークに非営利団体「Midori&Friends」と、同時に東京に「みどり教育財団東京オフィス」（現：認定NPO法人ミュージック・シェアリング）を設立。ミュージック・シェアリングでは、2006年からアジア圏にも活動を展開している。さらにアメリカでは、PiP（室内楽地域活性化団体）やORP（地方ユースオーケストラ支援プロジェクト）など、目的に合わせた様々なプロジェクトや団体を創設。20年にわたり継続している地域社会を意識した先導的音楽活動は、音楽家はもとより社会全体に影響を与え、強い支持を得ている。

2004年、南カリフォルニア大学ソントン音楽学校弦楽学部「ハイフェッツ・チェアー」の教授に就任し、2007年より学部長、2012年には特別教授職となる。2010年より相愛大学客員教授、2012年にはイェール大学から名誉博士号を授与された。アメリカ芸術科学アカデミーのメンバー。

2005年ニューヨーク大学心理学修士号を取得。

2007年、国連ピース・メッセンジャー（国連平和大使）に任命され、貧困、平和、環境、教育等の問題の改善に人力を注いでいる。

使用楽器はガルネリ・デル・ジェス「エクス・フーベルマン」（1734年作）。CDはソニー・クラシカルよりリリース。

公式サイト <http://www.gotomidori.com/japan/>



ガヒョン・チョウ GaHyun Cho (ヴァイオリン)

韓国出身。4歳でヴァイオリンを始め、10歳で韓国交響楽団との共演で楽壇デビュー。ワシントン国際コンクール(2009年)や、マックス・ロスタル国際ヴァイオリンコンクール(2012年)で第一位に輝くなど賞歴も多く、ソウル・フィルハーモニー管弦楽団、フランクフルト・ブランデンブルグ州立管弦楽団、ミュンヘン放送管弦楽団などの著名なオーケストラとソリストとして共演。カーネギー・サンケル・ホール、ジョルダンホール、ロサンジェルス郡立美術館、秀明アーツ・センターなどで室内楽を演奏したほか、ソウル国立大学及びニューイングランド音楽院で、キム・ヤンクウとドナルド・ワイラー・スタインに、現在、南カリフォルニア大学ソートン音楽学校のアーティストディプロマ・コースに小学生として在籍し、五嶋みどりに師事。



ウィリアム・フランプトン William Frampton (ヴィオラ)

アメリカ出身。2009年にニューヨーク、カーネギーホール(ワイル・リサイタルホール)にてリサイタル・デビュー。ボストンのジョルダン・ホールにて、ジョゼフ・シルヴァースタイン指揮出ベルリオーズの「イタリアのハロルド」をはじめとして、ソリストとして出演を重ねている。今シーズンは、シェーンベルグの「浄夜」をヨハネス・カルテットと、モーツァルトの「ヴァイオリンとヴィオラのための協奏交響曲」をヴァイオリニストのショーン・リーと共演するほか、アメリカ交響楽団の客演首席奏者も務める。これまで、ニューイングランド音楽院とジュリアード音楽院にて、キム・カシュカシャン、サミュエル・ローズ、チェーン・ジン・チャンに師事。現在、ニューヨーク市立大学クイーンズ校で教鞭をとる。

<http://www.williamframpton.com/>



マイケル・カツ Michael Katz (チェロ)

イスラエル出身。ソリストおよび室内楽奏者として世界各地で活躍。ラヴィニアをはじめ、多くの音楽祭に出演。また、アメリカ、カナダ、日本、オランダ、チェコ、イスラエルでリサイタルを開催。アメリカ、フランス、イスラエルでは、ドヴォルザーク、シューマン、ハイドン、ショスタコーヴィッチの協奏曲を、オーケストラと共演。2011年のアビブ・コンクールでは3部門で入賞し、ジュリアード協奏曲コンクールやツルエマン・コンクール、イスラエル音楽院奨学金コンクールでも1位を獲得。ジュリアード音楽院、およびニューイングランド音楽院を卒業後、現在は、ニューヨーク州立大学ストーニーブルック校にてコリン・カー氏に師事し、博士課程在籍中。

photo © Susan Hagan
www.susanwillerphoto.com

Michael Katz

訪問国

ミャンマー連邦共和国

面積

68万平方キロメートル（日本の約1.8倍）

人口

6,367万人（2012年IMF推定値）

首都

ネーピードー

民族

ビルマ族（約70%）、その他多くの少数民族

言語

ミャンマー語

宗教

仏教（90%）、キリスト教、回教等

略史

11世紀半ば頃に最初のビルマ族による統一王朝（パガン王朝、1044年～1287年）が成立。その後タウンゲー王朝、コンバウン王朝等を経て、1886年に英領インドに編入され、1948年1月4日に独立。

訪問都市

ヤンゴン
マンダレー
ミッチーナ
パアン



活動概要

活動期間 2013年12月21日～12月30日
 プログラム回数 計15回 (コンサート 14回 ワークショップ 1回)
 参加者総数 2,150名

【スケジュール】

日		都市	行事	会場・場所
12/21	土		日本発	
			ミャンマー 着	
12/22	日	ヤンゴン	プログラム1	TERAKOYA SCHOOL Damadipa
			プログラム2	TERAKOYA SCHOOL Zalone
			プログラム3	ヤンゴン盲学校
12/23	月	ヤンゴン	プログラム4	Cleft Palate Foundation(口唇口蓋裂協会)
			ミッチーナへ移動	
12/24	火	ミッチーナ	プログラム5	ST.JHON'S IDP CAMP
			プログラム6	MAINA KAREN BAPTIST CONVENTION(KBC)IDP CAMP
			プログラム7	MAINA KAREN BAPTIST CONVENTION(KBC)IDP CAMP
12/25	水	ミッチーナ	プログラム8	MAINA KAREN BAPTIST CONVENTION(KBC)IDP CAMP
			マンダレーへ移動	
12/26	木	マンダレー	プログラム9	Gitameit 音楽学校 workshop @ジェファーソンセンター
			プログラム10	TERAKOYA SCHOOL War So
			プログラム11	Gitameit 音楽学校 Mandalay workshop/concert
12/27	金		ヤンゴンに移動	
		ヤンゴン	プログラム12	児童養護施設
12/28	土	ヤンゴン	プログラム13	Gitameit 音楽学校 Yangon workshop/concert
			パアンへ移動	
12/29	日	パアン	プログラム14	赤十字整形外科病院
		ヤンゴン	ヤンゴンに移動	
			プログラム15	ミャンマーピースセンター
				帰国

- <主催> 認定NPO法人ミュージック・シェアリング
 <協賛> キッコーマン株式会社、花王株式会社、三井石油開発株式会社、小学館
 <協力> 国連開発計画 (UNDP)、国際連合広報センター (UNIC)、全日本空輸株式会社
 特定非営利活動法人日本口唇口蓋裂協会、特定非営利活動法人メコン総合研究所
 公益財団法人浄土宗ともいき財団、Kachin Baptist Convention、Columbus Travel
 在ヤンゴンアメリカ大使館、ミャンマー・ピースセンター、Metta Development Foundation

各訪問先と活動の様子

プログラム1 TERAKOYA SCHOOL Damadipa (ヤンゴン)

日 時 12月22日(日) 10:00～
参加者数 約150名 小学生

ヤンゴン東にある仏教団体により運営されている寺子屋
スクール。学校近辺のスラム街で暮らしている子どもたちが
通っており、学校の授業では、僧侶、尼僧になるための
トレーニングも受けています。

子どもたちは演奏や楽器体験をとっても楽しんでくれました。
コンサートの後、急に一斉に静かになり、5分間の瞑想の時間
もありました。



プログラム2 TERAKOYA SCHOOL Zalone (ヤンゴン)

日 時 12月22日(日) 14:00～
参加者数 約100名 小学生

子どもたちはメンバーの周りを囲むように座り、メンバーも
演奏や楽器体験の時には、近くでよく見えるように子ども
たちにまわって見せました。演奏後には、子どもたちが5つ
のビルマ舞踊を披露してくれました。



プログラム3 ヤンゴン盲教育センター (ヤンゴン)

日 時 12月22日(日)夕方～

参加者数 約250名 子供から大人まで

キリスト教の礼拝堂が会場となり、ICEPメンバーの演奏や楽器体験の他、盲目の生徒たちと一緒にヴァイオリンを演奏し、クリスマスソングも演奏しました。地元のメディアからの取材も受けました。



活動ブログより

ヤンゴンからミンガラバー(こんにちは)!

インターナショナル・コミュニティー・エンゲージメント・プログラム(ICEP)2013のミャンマー訪問ツアーが現在進行中です!五嶋みどりと3人の若手音楽家、ガヒョン・チョウ(ヴァイオリン)、ウィリアム・フランプトン(ヴィオラ)とマイケル・カッツ(チェロ)は、昨夜ヤンゴンに到着し、国連の歓迎を受けました。ヤンゴンの国連施設前庭の芝生でレセプションを催してくれたのです。

今日は、カルテット一行は3か所でコンサートを行いました。最初の2か所は、貧困家庭の子どもたちや孤児のための寺子屋学校で行いました。この2つの学校では、300人を超える聴衆が集まりました。音楽を聴くと、子どもたちの顔はパッと明るくなったようでした。そして、たくさん子どもたちが演奏家たちの楽器(五嶋みどりのガルネリウスのヴァイオリンにも)に触れることが出来たのです。

今日、最後には、ヤンゴン視覚障害者教育センターで演奏しました。そこには、たくさん子どもたちが聴きにきてくれて、中には自分のヴァイオリンを持ってきて季節を祝う曲をカルテットの為に弾いてくれた子どもたちもいて、一緒に合奏もできました!

明日は、ヤンゴンの口唇口蓋裂病院で演奏し、そのあとミッチーナへ向かいます。紛争に苦しむ地域を訪ね支援するため、ミッチーナ近隣の国内難民キャンプ訪問を二日間続ける予定です。

ICEP ツアー コーディネーター
チャド キヤノン

The International Community Engagement Program (ICEP) 2013 tour to Myanmar is now under way! Midori and the three young musicians, GaHyun Cho (violin), William Frampton (viola) and Michael Katz (cello) arrived last night to the warm welcome of the United Nations, who held a reception on the front lawn of their facilities in Yangon.

Today, Midori and the quartet performed three concerts. The first two were at charity schools for homeless (or extremely poor) children, many of whom are also orphans who live at or near the school facilities. Between the two schools there were probably more than 300 in attendance. The children seemed to light up when they heard the music, and many of them had the chance to touch the musicians' instruments (including Midori's 1734 Guarnerius del Gesu violin).

We closed the evening with a performance at the Yangon Education Centre for the Blind, with many students in attendance, a group of whom pulled out violins of their own and performed some holiday favorites with and for the quartet!

Tomorrow, following a performance at a cleft palate hospital in Yangon, we head to Myitkyina, where we will spend 2 days visiting IDP camps near the city, to spread some seasonal cheer in a region racked with conflict.

Chad Cannon
ICEP Tour Coordinator

プログラム4 Cleft Palate Foundation(病院) (ヤンゴン)

日 時 12月23日(月) 10:00

参加者数 約150名

ヤンゴンの中心に位置する病院。演奏や楽器体験のあと、待ち時間には、病院の廊下でも演奏することとなり、待合室にいた患者さんが方も突然の演奏に驚きながらも喜んでくれました。



活動ブログより

ハロー、みなさん、そしてミッチーナからミンガラバー(こんにちは)！

ICEPのミャンマー訪問の最初の二日間は大成功のうちにお終わりました。お会いした皆さんはとても親切で、熱心に音楽に耳を傾けて私たちにも興味をもってくれました。昨日は、3カ所で演奏しました。今日は次の場所へ移動のため、1カ所だけの演奏となりましたが、特別なコンサートとなりました。早朝、ヤンゴンの口唇口蓋裂病院に到着し、病院と近くの学校の2つのグループの子どもたちに演奏しました。皆、音楽にとってもよく反応し、特に私たちが“petting zoo”と呼んでいる、楽器を近くで観察し、聴き、触れることのできる『楽器体験の時間』をとっても喜んでくれました。

この演奏会が終わった後、荷物を置いた部屋に鍵がかかかっていて開けられなかったため、歯科の診療待合室にいた患者さんたちの前で、2曲演奏することになりました。患者さんたちのほとんどは、この日、私たちが演奏するとは思っていませんでしたので、皆さんの驚く様子を見るのはとても面白かったです！

病院を訪問した後は、北部のミッチーナへ行くために空港へ向かいました。ホテル到着後の自由時間には、この町の面白いお店や屋台を見て回りました。オレンジはこの地域の特産品で、種類やサイズの違うオレンジばかりが売られている通りもありました。明日は、3カ所の避難キャンプを訪問する長い一日になりそうです。聴衆は、ヤンゴンで会った人たちとは違っているでしょう。皆さんといろいろな交流ができることがとても楽しみです。

ICEP チェロ奏者 マイケル・カツ

Hello everybody and Mingalaba from Myitkyina!

The first two days of the Myanmar portion of ICEP have been very successful and offered us many excitements. Everybody we've been countered so far has been extremely kind and warm, and people are eager to hear music and learn more about us. After playing 3 different concerts yesterday, we were somewhat relieved to play only one concert today, but it was a very special one. We arrived at the Cleft Palate Hospital in Yangon early in the morning and performed for an audience comprising of two different groups of children - students from a nearby school, and patients at the cleft clinic. The children responded very well to the music and especially to our "petting zoo" - a time where they can observe, hear, and even touch our instruments.

After the performance finished we discovered that the room with all our bags was locked and decided to use the opportunity to give 2 spontaneous encore performances for patients waiting to see their dentists. As most of these patients didn't expect to hear us play that day, their reactions were highly entertaining to see!

Following our visit to the hospital we continued to the airport to fly to Myitkyina in the far north. After arriving in our hotel we had a free afternoon and decided to use the opportunity and get acquainted with the town and discovered many interesting shops and food stalls. One particular street offered nothing but oranges of different types and sizes, which is one of the specialties of the region! Tomorrow we expect another long day as we visit 3 different IDP camps. Our audiences will be quite different from those in Yangon and we are excited about the many interactions we will have!

Michael Katz ICEP, Cellist

プログラム5 ST. Joseph's IDP(Internally Displaced Person)Camp (ミッチーナ)

日 時 12月24日 (火) 9:00
参加者数 約250名

カトリック教会運営の避難キャンプ訪問は、国連 (UNDP) のサポートにより実現しました。クリスマスホリデーの寒い日でしたが、寄付された洋服を着こんだ子どもたちが参加し、メンバーの演奏を喜んでくれました。



プログラム6 Maina KBC (Karen Baptist Convention) IDP Camp 1 (ミッチーナ)

日 時 12月24日 (火) 13:00
参加者数 約200名

避難キャンプという環境でも、子どもたちはにぎやかなくらい元気に、演奏を楽しんでいました。



プログラム7 Maina KBC Camp IDP Camp 2 (ミッチーナ)

日 時 12月24日 (火) 16:00
参加者数 約250名

子どもたちからあたたかい歓迎を受けました。狭い会場でしたが、子どもたちは集中して演奏を聴き、笑顔が溢れるコンサートになりました。



＊活動ブログより＊

今日は一日、カチン州の州都であるミッチーナで演奏をしました。カチン州の多くの人々はキリスト教徒で、大半の人がミッチーナに住んでいます。私たちは、3つの国内避難民キャンプ (IDP Camp) で演奏しました。ちょうどクリスマスのお祝いのさなかで、人々と交流することができました。クリスマスキャロルは、ほとんどの人が歌詞も曲も知っていて、とても素晴らしい一時となりました。この地区の内戦避難民は、国内外からのさまざまな組織からサポートを受けています。家、村を追われた人たちの生活は、想像するだけでも大変だと感じました。安心な避難地域にすることができても、家を強制退去させられた人にはほんの少しの慰めにしかならないのかもしれませんが。幸せな日々が一刻も早く戻り、人々が無事に家に帰れますように。

ウィリアム・フランプトン

Today was a full day of performances in Mytkyina, Myanmar. Mytkyina is the capital of Kachin State, and it is the home of a large number of Kachin people, who are predominantly Christian. We played in three Internally Displaced Persons Camps (IDP Camps) and communicated with these communities in the midst of Christmas celebrations. It was very special for these people since we had a Christmas carol sing along, and most of those gathered knew the words and sang. These refugees of the civil wars in the region are supported by a variety of organizations both local and international. They had to leave their homes and villages, which I imagine must have been very difficult. They do have the comfort of a community in this time before they are able to return, although this must be a small consolation for people who have been forced to leave their homes. I hope that peace is attainable soon, and that the process to return to their homes will go smoothly.

William Frampton

プログラム8 Final IDP Camp (ミッチーナ)

日 時 12月25日(水) 10:00

参加者数 120名

この避難キャンプはシャーン族がつくったもので、コンサートは集会所でもある寺院で開催されました。参加した子どもたちは「この音楽をずっと聞いていたい」と大喜びでした。



活動ブログより

ミッチーナからメリークリスマス！今朝、ミッチーナの最後のコンサートがお寺でありました。朝9時からのコンサートでしたが、村の多くの方が演奏を聴きにきてくれました。聴衆の反応はとてよく、子供たちは何の躊躇もなく近寄ってきて、私たちを取り囲みました。「Petting zoo」と私たちが呼んでいる楽器体験のときには、私の両腕まで子どもたちに囲まれてしまいました！私たちはずっと笑顔で演奏し、人々が音楽によってこんなにも心が和らぐのだということをつくづく感じました。

昼食後、ホストの一人 Daw Seng Raw さんから教会での礼拝に招待され、出席しました。言葉は理解できませんでしたが、踊り、歌、ヴァイオリンの演奏など礼拝の一部の様子はわかりました。98%の人がキリスト教徒であるミッチーナは、とても興味深い町で、ミッチーナの人々との特別なクリスマスとなりました。

これからマンダレーに向かいます。
また何が起こるか今から楽しみです。

ガヒョン・チョウ

Merry Christmas! Greeting from Myitkyina! We had our last concert this morning at the temple. Even though it was a pretty early concert at 9am, many people around village came to listen our concert! As performers, we feel more sensitive to how the audience reacts to us, and I was overwhelmed by the fact that children seem to have less hesitancy to get close to me. In the 'petting zoo' both my arms were covered with children! We were laughing together while I was playing for them, looking at each other, and I believe we totally disarmed each other by music!

After the lunch, some people in our group including me were able to attend service at a Christian Church, to which we were invited by Daw Seng Raw, one of our hosts. Although we were not able to understand the language, we saw part of the service, with dancing, singing, and a violin orchestra!

Most of all, it was interesting to know the fact that Myitkyina is the city where the population is 98% Christian! It was quite as special of a Christmas for me as it was for the people of Myitkyina!!

Now, we are off to Mandalay.
Looking for another story coming up!

GaHyun Cho

プログラム9 The Jefferson Center (Gitameit Music School) (マンダレー)



日 時 12月26日(木) 10:00

参加者数 30名

ギタメイト音楽学校のためのワークショップ。
アメリカ大使館の協力により実現しました。メンバーは生徒一人ずつに、弓の使い方や音、ビブラートなどを指導しました。

プログラム10 Terakoya School War So (マンダレー)



日 時 12月26日(木) 14:00

参加者数 約100名

修道僧の子どもたちが積極的に楽器体験に参加し、ヴァイオリンにとっても興味を持ったようで、楽しい時間を過ごしました。コンサート後には、少女たちによる民族舞踊が披露されました。

プログラム11 Gitament music school Mandalay (マンダレー)



日 時 12月26日(木) 10:00

参加者数 100名

ギタメイト音楽学校の生徒たち向けのワークショップを兼ねたコンサート。生徒たちからは、沢山の質問がメンバーに寄せられていました。ビルマの伝統的ドラム演奏も披露してくれました。

プログラム12 公立児童養護施設（ヤンゴン）



日 時 12月27日（金）

参加者数 約100名

小さい子どもたちがたくさん集まってくれて、メンバーの演奏や楽器にも興味をもってくれました。楽しいコンサートとなりました。

プログラム13 Gitament Music Center（ヤンゴン）



日 時 12月28日（土）10:00

会 場 教室

参加者数 約50名

ワークショップとコンサートのプログラム。ピアノトリオでのアンサンブルの演奏と指導も行いました。彼らは、西洋音楽の馴染みのないミャンマーにおいて、パイオニア的存在になっていくと思われます。

ワークショップの後、いくつかの地元メディアの取材も受けました。

プログラム14 Red Cross Orthopedic Hospital（パアン）



日 時 12月29日（日）9:00

会 場 ホール

参加者数 約50名

実施内容 ICEP カルテット演奏、楽器の説明

パアンは、世界的にも内戦が最も長く続いている地域であり、その紛争によりたくさんの被害者（特に、地雷被害者の方）に演奏できたことは、とても意義のあることでした。

プログラム15 Myanmar Peace Center (ヤンゴン)



日 時 12月29日(日) 18:00

参加者数 約250名

ミャンマーの外交関係の方や国連関係者を招いての演奏会。

ICEPメンバー演奏へのお礼として、「ピースラブ」という

グループの演奏やミャンマーのポップミュージシャン Po Kwar 氏の歌を楽しみました。

活動ブログより

私たちのミャンマーの旅も、もうすぐ終わりです。ICEPカルテットのメンバーは、この美しい国の千人以上もの子どもたちに、音楽を届けることができました。

最後の数日間は、ハードなスケジュールとなり、マンダレーからヤンゴン、ヤンゴンからパーンへ、そしてまたヤンゴンへと、町から町へ飛ぶように移動しました。ただ、国内移動の際に心配していた、国内線でのチェロ席も確保でき、本当にホッとしました。この訪問を簡単にご報告しますと、アメリカ大使館の支援によるマンダレーへの訪問では、ジェファーソンセンターというアメリカの教育・文化支援の公共施設と、日本の浄土宗ともいき財団が建設支援しNPO法人メコン総合研究所運営による寺子屋、そしてマンダレーギタメイト音楽学校で、訪問コンサートを開きました。ギタメイト音楽学校では、幸運にも「Pat Waing (パットワイン)」と呼ばれている伝統的な太鼓の演奏を聴くことができました。

パーンでは、ミャンマー赤十字の整形外科病院を訪ねました。聴衆の多くは、地雷のために手足を失った人々でした。パーンは、不幸なことに世界で最も長く内戦が続いていた紛争地域で、カルテットのメンバーにとっても病院での訪問演奏は、平和と「祝福」を伝える重要なものとなりました。この訪問は、国連がアレンジして運転手も手配していただき、地元のパーンの社会福祉大臣も出席してくださいました。

ヤンゴンに戻り、最後のコンサート会場となるミャンマー・ピース・センターに到着しました。このコンサートには外交官の方々や、ヤンゴンのたくさんの方々も聴きにきてくれました。ICEPカルテットの演奏後、「Peace Lovers 平和を愛する人々」というグループの演奏があり、最後には、私たちが8日間の旅の間にも出会った、カイン、カチン、シャン州などのミャンマーの民族舞踊を、伝統的な衣装を着けて披露してくれました。

ミャンマー訪問で、多くの素晴らしい、親切で明るい人々と出会うことができとても感謝しています。カルテットのメンバーが子どもたちにお届けした音楽は、子どもたちの心を開き、たとえ異なる言語を話していても、私たちは共通の思い出を作ることができました。6月のICEPの活動では、この経験を日本全国の子供たちと分かち合うことを今から楽しみにしています！

最後に、日本の協賛企業の皆様をはじめ、全日本空輸、日本口唇口蓋裂協会、メコン総合研究所、浄土宗ともいき財団、カチンバプテスト連盟、国連の皆様と関係者の方々(運転手の方！)、ギタメイト音楽学校、コロンバストラベル、在ヤンゴンアメリカ大使館、ミャンマー・ピース・センター、ヤンゴンでのコンサートに出席して下さった在ヤンゴン日本大使館の皆様、メタファンデーション、そしてその他多くの方々のご協力により、今回のミャンマー訪問が成功しましたことを心から感謝申し上げます。

チャド キャン

Dec. 29, 2013

Our journey to Myanmar has come to a close! Midori and the ICEP quartet have brought their music to more than a thousand young people in this beautiful country. Our last few days were a little wild, as we jumped from city to city (Mandalay to Yangon to Hpa'an to Yangon). We were just relieved the cello was accepted on the domestic flights as a passenger too!

Just to recap a little bit, our visit to Mandalay (supported by the US Embassy) included programs at the Jefferson Center (the US public center dedicated to supporting education and culture), another GMI (Greater Mekong Initiative) and Jodoshu Tomoiki Foundation terakoya school (the latter supports the construction of the terakoya schools), and a concert at the Mandalay Gitameit school, where we were blessed to hear a performance of the traditional drums (called "Pat Waing").

In Hpa'an, we visited an orthopedic hospital run by the Myanmar Red Cross. Many of the people in the audience were men who had lost limbs to land mines. Hpa'an has the unfortunate claim of having the world's longest continuing civil war, so it was an important gesture for Midori and the musicians to bring peace and "celebration" to the hospital there. The United Nations provided drivers and arranged for the visit, which was attended also by the Minister of Social Welfare for Hpa'an.

Back in Yangon, we arrived at the Myanmar Peace Centre just in time for our final peace concert, which was attended by diplomats and many people from the Yangon public. After the ICEP quartet played, there was a group called the "Peace Lovers" that performed for us. The final piece featured a group of dancers dressed in traditional clothing from many of the major ethnic groups throughout Myanmar, including the Kayin, Kachin, and the Shan, all of whom were groups we had encountered during our 8-day trip!

I am so thankful for the opportunity I have had to meet so many wonderful, kind, and optimistic people throughout Myanmar. The music Midori and the quartet brought to the children seemed to open their hearts, and allowed us all to create memories together, even though we all spoke different languages.

I look forward to the June portion of ICEP, when we can share our experiences with children all over Japan!

I am deeply thankful for the help and cooperation we received from so many organizations, including ANA Airlines, the Japan Cleft Palate Foundation, the Greater Mekong Initiative, the Jodo-shu Tomoiki Foundation, the Kachin Baptist Convention, the United Nations and its agencies (and their drivers, especially!), the Gitameit Music Schools, Columbus Travel, the US Embassy in Yangon, the Myanmar Peace Centre, the Japanese Foreign Ministry (who attended our concerts in Yangon), the Metta Foundation, and many, many others without whom our tour could not have succeeded.

Chad Cannon

ミャンマーでの活動写真：鈴木忍

認定NPO法人 **ミュージック・シェアリング**

〒102-0092 東京都千代田区隼町2-12 藤和半蔵門コープ708
TEL : 03-3261-1855 FAX : 03-3261-1856 Email: info@musicsharing.jp
<http://www.musicsharing.jp/>

